

日本消防



□ 絵 (公財)日本消防協会定時評議員会 平成27年6月19日(金) 於 日本消防会館
 ヨーロッパ青少年消防オリンピック派遣に係る派遣選手団結団式・国内事前研修 平成27年6月13日(土)~14日(日) 於 東京消防庁消防学校
 第22回全国女性消防操法大会指導員研修会 平成27年6月10日(水)~11日(木) 於 横浜市消防訓練センター

巻頭言 「消防団活性化の取組」…………… (公財)和歌山県消防協会 会長 谷中 幹夫 …… 1
 日消の動き 「日本消防第3の時代スタート」…………… (公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 …… 3
 (公財)日本消防協会の臨時理事会及び定時評議員会等の開催…………… (公財)日本消防協会 …… 4
 ヨーロッパ青少年消防オリンピック派遣事業 派遣選手団結団式及び国内事前研修の開催
 ……………… (公財)日本消防協会 …… 8
 第22回全国女性消防操法大会指導員研修会の開催 ……………… (公財)日本消防協会 ……11
 特別表彰まといを受章して「地域に根差した活動を目指して」…新潟県新潟市消防団 団長 藤田 隆 ……13
 東西南北(北海道)「地域への恩返し」…………… 札幌市中央消防団 団長 大石橋順三 ……15
 東西南北(青森県)「絆が生んだぼたんカード 地域ぐるみで消防団を応援」
 ……………… 南部町消防団 団長 板垣 雅英 ……17
 東西南北(埼玉県)「笑顔きらめく“ほっと”なまちーあげお」…………… 上尾市消防団 団長 鈴木 博……19
 東西南北(島根県)「地域防災力の中核として欠くことのできない存在 消防団」
 ……………… 邑南町消防団 団長 細貝 輝男 ……21
 シンフォニー (大分県)「ファイヤーレディース21~私たちだからできること」
 ……………… 大分市消防団 女性分団 副分団長 鳥居登貴子 ……23
 消防団員の地域への想い、団員になって良かった話を編集した「消防団の思い出宝箱」を作成
 ……………… 愛知県豊田市消防団 ……25
 地域防災拠点機能を有した消防分団詰所の竣工 ……………… 愛知県瀬戸市消防団 ……29
 少年消防クラブ指導者交流会での活動報告 ……………… (一財)日本防火・防災協会 ……30
 花火・火遊びによる火災の防止 ……………… 総務省 消防庁 予防課 ……39
 消防団ドラマ「HEAT」の撮影に全面協力…………… 総務省 消防庁 防災課広域応援室 ……40
 消防団の充実強化に向けた経済団体への働きかけ ……………… 総務省 消防庁 地域防災室 ……42
 日本消防協会オリジナル商品 ……………… (公財)日本消防協会 ……43
 うちの名物団員 ……………… …… 44
 消防団の広場(岩手県)「安全、安心のまちづくり」
 ……………… 葛巻町消防団 団長 遠藤正樹 ……46

編集後記

表紙写真説明

北海道の初夏を彩る「ラベンダー」

ラベンダーは早咲きですと6月下旬から開花し7月には北海道の初夏を彩ります。
 ラベンダー畑としては富良野が有名ですが、1937年に曾田政治氏がフランスより持ち帰り札幌市南区南の沢で栽培したのが発祥と言われております。
 北海道のラベンダー畑は絶景ですのでぜひ観光にお越しください。

(北海道中富良野町)

写真提供：富良野広域連合消防本部

(公財)日本消防協会定時評議員会

平成27年6月19日(金) 於 日本消防会館



**ヨーロッパ青少年消防オリンピック派遣事業
派遣選手団結団式及び国内事前研修**

平成27年6月13日(土)～14日(日) 於 東京消防庁消防学校



第22回全国女性消防操法大会指導員研修会

平成27年6月10日(水)～11日(木) 於 横浜市消防訓練センター



消防団活性化の取組

(公財)和歌山県消防協会 会長 谷中 幹夫



和歌山県の紹介

古くから「木の国」と謳われたほど山林が多く(県土総面積の77パーセントが森林)、紀伊水道や熊野灘を挟んで変化に富んだ海岸線が続き、特に紀南地域では山裾が黒潮に洗われ、橋杭岩をはじめとする奇岩怪石が屹立し豪快な景観を形づくっています。

気候は、太平洋気候を示しており、県北部と南部では温度差があるものの、黒潮の影響を受けて四季の温度の変化は少なく、特に日照時間の長い県南部地方は、冬でも温暖な気候となっています。

観光では、2004年7月、和歌山・三重・奈良の3県におよぶ広大な世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道(さんけいみち)」が誕生しました。紀伊山地に開かれた「高野山(こうやさん)」「熊野三山(くまのさんざん)」「吉野(よしの)・大峯(おおみね)」の山岳霊場とそこに至る「高野山町石道(こうやさんちょういしみち)」「熊野参詣道(くまのさんけいみち)」「大峯奥駈道(おおみねおくがけみち)」の参詣道は、人々の信仰と紀伊山地の大自然によって形成された「文化的景観」が世界でも類例のない資産として認められました。

地元「田辺市消防団」の紹介

私が在職している「田辺市消防団」は、平成17年5月1日に5つの市町村が合併し新「田辺市」が誕生したのに伴い、消防団も統合されました。この新「田辺市消防団」の体制は、団本部の組織下に旧市町村の消防団を5つの支団として位置付け、条例定数についても合併前の各消防団の合計数である1,050名体制を維持しています。また、平成21年4月1日には女性分団を新たに設置し、1団本部5支団31分団の組織体制となっています。今後は更に自主防災組織との連携も進め、地域密着型の消防団として充実強化を図っています。

平成23年台風12号災害の状況

私の地元である田辺市は、台風12号により甚大な被害を受けました。道路やライフラインの寸断、また、河川の氾濫や土石流が集落を襲うなど「陸の孤島」と化し、死者行方不明者が出るとともに、一部では長期的な避難を余儀なくされるなど、近年では最悪の自然災害となりました。9月3日の午前中に四国に上陸し、時間雨量30～40ミリの雨が4日の早朝まで降り続き、田辺市内の降り始めからの雨量は、多いところで約2,000ミリに達し、消防団員の出勤も延べ2,000人を超えました。

台風12号の活動を振り返り、「患者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という言葉を再認識させられました。田辺市は、明治22年8月に1日雨量902ミリ、3日間雨量1,295ミリという大雨により297名の死者を出しています。しかしながら、近年大規模な河川改修等により、一部浸水被害を受ける地域はありますが、死者が出るような大きな被害は少なく、雨による大災害の教訓が薄れており、また、合併により広範となった市全域でほぼ同じ時間帯に被害が多発した今回のような災害への備えも不十分でした。

今後は、この災害の教訓を忘れることなく最悪に備えて、住民の意識改革にも関与し、災害による死者を出さない地域づくりに取り組んでいかなければならないと考えています。

田辺市消防団活性化の取組

合併によって組織体制が大きくなり消防力の強化に繋がりましたが、反面、全国の消防団の状況と同じく社会環境の変化に伴い、消防団員の減少、高齢化、サラリーマン化などの課題に直面することとなりました。

田辺市消防本部では合併翌年の平成18年度からこれらの課題に対する取組を進めるべく、中堅若

手団員を構成員とする「消防団活性化検討委員会」を立ち上げ、「消防団活性化計画」を策定し、現在も取組を継続しています。なお、これまでの取組状況は次のとおりです。

【平成18年度】

- (1) 消防団活性化検討委員会設置
・各支団を代表する中堅若手団員13人が委員

【平成19年度】

- (1) 消防団活性化計画を策定
計画の柱
 - ① 消防団員確保対策
 - ② 消防団員の処遇改善
 - ③ 女性消防分団の設置
 - ④ 消防団の施設・装備の充実
 - ⑤ 訓練教育体制の充実
 - ⑥ 地域との連携
- (2) 安全装備品の充実
新たに配備した装備等
 - ① 透湿性、防水性の高い合羽への変更
 - ② 救命胴衣の配備
 - ③ 高性能な防火衣、防火ヘルメットへの変更
 - ④ ケブラー手袋、ヘッドランプ等の支給
 - ⑤ 軽量で靴底の柔らかい編上靴への変更
 - ⑥ 消防団車両へのデジタル無線機の設置
 - ⑦ 倒壊家屋救出用資器材の配備

【平成21年度】

- (1) 第1期・消防団活性化推進委員会の設置
・各分団を代表する中堅若手団員30人が委員
・答申・「分団単位での定期自主訓練を通じての技能向上」
- (2) 女性消防分団の設置
(活動状況)
・救命講習指導(応急手当普及員資格あり)
・幼稚園、保育所等への防火指導の実施
・イベントでの防火広報活動の実施
・女性消防ポンプ操法大会への出場 など

【平成24年度】

- (1) 第2期・消防団活性化推進委員会の設置
・各分団を代表する中堅若手団員30人が委員
・答申・「機能別消防団員制度の導入」
「報酬の見直し」
「団員強化制度の実施(訓練指導団員の養成)」

- (2) 携帯電話メールを利用した情報一斉配信
・火災等の出動指令
・台風接近時等における気象情報等の配信
・通行止め等の情報の一斉配信 など

【平成25年度】

- (1) 消防団車庫・器具庫適正配置
消防団車庫・器具庫の適正配置(新設、廃止及び統合、並びに車両新規配備)を行い、現場到着時間の短縮を図る。

【平成26年度】

- (1) 機能別消防団員制度の導入
OB団員、補助団員及び登録団員の制度を導入し、大規模災害時や特殊災害時の消防団活動に対する支援体制を強化するとともに、予防広報活動等の充実を図る。
- (2) 年報酬の引き上げ
- (3) 訓練強化制度の実施
分団内での訓練指導体制を強化することを目的に、各分団に訓練指導団員を養成する。18ヶ月間で36時間にわたり、消火訓練はもとより、救急・救助訓練も実施し、訓練・研修を修了した者を「訓練指導団員」に指名し、分団内の訓練指導や分団間の連携訓練の企画及び指導などを行なう。

【平成27年度】

- (1) 出動手当の引き上げ
- (2) 消防団音楽隊の設置
消防団音楽隊員を支援団員に任命し、火災予防啓発活動等を実施する。
- (3) 消防団員雇用事業所優遇制度
消防団員を雇用している事業者に対して、入札に係る工種別ランク設定時の主観点数を加点し優遇する。

平成25年には「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が公布・施行され、市町村等は消防団員の確保、処遇の改善、装備や教育体制の充実強化について、必要な措置をとることが義務付けられたところでもあります。和歌山県消防協会としても、この法律施行を更なる飛躍の機会と捉え、消防団が地域防災の中核としての役目を果たせるようなお一層取り組んでまいりますので、皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

日本消防第3の時代スタート

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

6月の当協会役員会の際、私は、百年以上に及ぶ日本消防の歴史を大局的に見ると、今、第3の時代のスタート地点に立っていると思うと申しあげました。一昨年、東京ドームの記念大会では、初めて「消防団120年」を大会タイトルに出しましたが、これは、単に消防制度が何年というだけでなく、日本消防の実態そのものに着目する記念大会にしたかどうかという思いでした。そのような見方でふり返りますと、明治27年の消防組規則という勅令で全国的、統一的に今の消防団が整備され始め、これによって全国にわたる日本消防の基盤づくりが進められました。これが第1の時代、基盤づくりの時代です。

この基盤のうえに、およそ40年前、全国的に常備化が動き始め、僅か10年余の間に全国殆どの地域が常備消防の所管区域に組み込まれました。そして、このなかで、20年前、阪神淡路大震災という、関東大震災以来の大都市直撃の大地震を経験し、その反省のもとに、緊急消防援助隊を創設し、これを中心に常備消防の装備などは大幅に整備されました。この頃は、常備消防充実の時代、第2の時代です。

そうして4年前、東日本大震災というつらい体験をしました。その反省と教訓のもと、これからの我が国消防のあり方として、当協会は、消防団を中核とする地域の消防防災体制の強化を進めるべきこと、そのために必要な法律を制定することを提案しました。やや時間を経て、多くの方々のご尽力により、一昨年、ご存知のとおり、「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」という新しい、まさに画期的な法律が成立しました。この法律を基礎として、今始まったのが常備消防、消防団が中心的な役割を果たしながら、地域の皆さんの総力を結集して進める地域防災力充実強化の時代であり、これが日本消防第3の時代だと思えます。私たちは今、そのスタート地点に立っていると思うのです。

災害の様相も変わってきて、それぞれの地域毎に、その地域の状況に応じた対応が強く求められています。広域の大規模な災害の時も、大事なのは地域毎の対応の積み重ねです。どのような事態であれ、対応の原点は「地域」だと思えます。

このような考えで、今の、そしてこれからめざすべき日本消防のあり方を考えますと、消防団は益々重要になりますし、そうすると、その活動のあり方、必要な装備などについても、あらためて思うことが出てくるかと思えます。

このような大局的な歴史観をもちながら、新たな日本消防、消防団の発展をめざしたいと思えます。

公益財団法人日本消防協会の臨時理事会 及び定時評議員会等の開催

(公財)日本消防協会

平成27年6月19日（金）、公益財団法人日本消防協会の臨時理事会及び定時評議員会等が日本消防会館において開催されました。

平成26年度の事業報告及び決算、その他各議案の説明が行われ、いずれの議案も原案のとおり承認されました。

評議員会の冒頭、秋本会長から次のとおり挨拶がありました。

皆様方、ご多忙の中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今日の評議員会は、平成26年度の事業報告及び決算が中心であります。

4年前に東日本大震災が発生し、福祉共済等では辛い決定をせざるをえない、事業の見直しをするといったことでありましたが、平成26年度は平常に復した年であり、公益財団法人としての最初の年でありました。色々な仕事のやり方や公益財団としてのルールを変更しな



ければならないところもあり、ご協力をお願いをいたしました。おかげさまをもちまして無事に終えることができました。また、多くの方が東日本大震災で殉職されたことにより、残されたお子様方に対する奨学金の支給について、従来の仕組みでは対応しきれないことから特別の基金を設け寄付をお願いいたしました。その結果、5月の初めで目標である5億円を達成することができました。全国の皆さんにご協力いただいたことをあらためて深く感謝申し上げます。これで残されたお子様方に滞りなく差し上げることができます。

そして、平成26年度は、一昨年に成立いたしました「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の施行の最初の年でもありました。昨年8月には初めてとっていい全国的な国民的大会を行いました。また、平成27年度に向けて全国の消防団の皆さまに対して、市町村の予算の増額ということについてご尽力をお願いいたしましたところ、装備費については従来ベースの7割増の伸びを示すことができました。それぞれの消防団が頑張っていたいただいた成果であり、このことに対しまして敬意を表しますと同時に、更に、これを伸ばしていかなければならないと思っております。

日本消防を長い歴史で見たとき、第3期に入ってきていると思います。明治27年に消防組規則が制定されて全国に統一的な消防団がスタートしました。それから全国に日本消防の基盤づくりが進んでいきました。その上に立って約40年前から全国的に常備化が進みました。

10年ほどの間に常備化が進んだのは大変なことでありますが、消防団が全国に整備されていたことが基礎になったと思います。そして、その中で阪神・淡路大震災が発生し、緊急消防援助隊を作り、それを中心にしながら常備の体制整備、装備の改善等が大幅に進みました。これが第2期と言えます。私は、一方で消防団を中心とした地域の体制が大事だと述べてきましたが思うようにならない中、東日本大震災が発生したことで、大変きつい体験をし、厳しい教訓を突き付けられた思いがありました。

そこで、日本消防協会としては、新しい法律を作るようにと意見を出し、法律を作っていただきました。そして今、日本の消防の歴史でいうと、第3期に入ってきていると思います。消防団で基盤整備し、常備化が進んで体制を強化、第3期では常備はもちろんのこと消防団、国民の方々も含めて、総合的な地域の防災力を強化して行こうという時期に入ったと言えます。これは、今の災害の状況を考えると特に必要性が高くなっています。これまでの常識では考えられないような災害が発生し、これに対して地域として対応するということが大切になっています。局地的な災害だけでなく広域的な大規模災害でありましても、それぞれの地域でどのように対応していくかという積み重ねが大事であります。今後、災害状況の変化、大災害の発生が懸念される中で、地域の体制強化が強く求められる時代、すなわち、日本消防第3期というべき地域消防防災体制の強化を進める時代に入ってきました。平成26・27年度はその幕開けの時期になっています。

これから27年度以降におきましても、そのような考え方のもとに、これまで進めてきましたことを発展させるため、引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

続いて、来賓の坂本消防庁長官からご挨拶を頂きました。

皆さま方には、評議員会という事で全国からお集まりいただきました。誠にご苦労様です。

ただ今、秋本会長からお話がありましたように、新しい展開に移っていっているという認識が消防庁にもあります。いろいろな危機があり、その危機が発生する前のマネジメントをリスクの管理といい、危機が起こった時のマネジメントをクライシスの管理といいます。事前に何をしておくかと、起こった時に何をするかという事が重要であります。

最近特に大きい危機が発生しています。東日本大震災、広島土砂災害、御嶽山噴火等の大きな災害につきましては緊急消防援助隊が対処することになりますが、大きな部隊を展開するためには時間を要することから、その間は地域で対処してもらわなければなりません。従って、大きな救助力を展開するまでには、やはり消防団の活躍が期待されており、地域の防災力の強化が必要です。消防団の皆さまは、大きな救助力をうまく地元展開できるように導いていただかなければなりません。応援力を強化する責務は消防庁にもありますので一生懸命頑張ります。しかし、大きな危機が発生した場合は、大きな救助力を地元の受援力を発揮して速やかに展開いただくには、地元の防災力の強化が欠かせません。皆さん



には、大きなところから小さなところまでのリスクの管理をお願いしたいと思います。

その時の中核的な組織は消防団です。現在、86万人であり、高齢化により減少しつつありますが、これからは女性の力も借りて女性消防団を増やしていきましょう。また、事業所に対して消防団へ協力していただくことを経済界に協力要請いたしました。地域では是非とも消防団をもっと大きくして、地域防災力を高めていただきたいと思います。

本日は、ここにお集まりいただき審議していただく、団結していただくという事は本当に意義あることだと思います。地域の防災を期待しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

1 臨時理事会

(1) 議案

- ア 第1号議案 名誉会員の選任について
- イ 第2号議案 内閣府への定期提出書類の提出について

(2) 説明事項

- ア 平成26年度事業報告について
- イ 平成26年度決算について

(3) 諸般の報告

- ア 第20回ヨーロッパ青少年消防オリンピックについて
- イ 第29回中国消防調査(内モンゴル自治区)について
- ウ 第22回全国女性消防操法大会について
- エ 第25回全国消防操法大会について
- オ 第21回全国女性消防団員活性化佐賀大会について
- カ 消防団防災学習・災害活動車両の交付について
- キ 少年消防クラブ全国交流大会について
- ク 消防団予算の状況について
- ケ 消防団応援の店について
- コ 東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金について
- サ 消防個人年金制度へのさらなる加入拡大について
- シ 消防団ドラマ「HEAT」について
- ス 日本消防会館の改築問題について

2 評議員会

議案

- 第1号議案 補欠評議員の選任について
- 第2号議案 補欠理事及び補欠監事の選任について

3 定時評議員会

(1) 議案

- ア 第1号議案 平成26年度決算の承認について(平成26年度事業報告等の報告を含む)
- イ 第2号議案 会計監査人の再任について

(2) 理事会決議事項の報告

- ア 内閣府への定期提出書類の提出について

- イ 名誉会員の選任について
- ウ 顧問の選任について
- (3) 諸般の報告(上記1と同じ)

4 臨時理事会

議案

第1号議案 副会長の選任について

第2号議案 地震等防災対策委員会及び福祉共済事業等運営委員会の委員の委嘱について

※一部の評議員、理事及び監事の辞任に伴い、その後任に選任された方等は、以下のとおりです。

(評議員)

大内 勝 氏(宮城県)	松下直弘 氏(愛知県)
五井文雄 氏(新潟県)	門脇正人 氏(鳥取県)
川鍋重美 氏(東京都)	松浦嘉昭 氏(島根県)
西田哲三 氏(埼玉県)	乃一一夫 氏(徳島県)
矢内 豊 氏(群馬県)	大澤俊朗 氏(福岡県)
関本和夫 氏(栃木県)	小山省三 氏(熊本県)
花輪貞夫 氏(山梨県)	松田 進 氏(沖縄県)
切刀吉文 氏(山梨県)	

(理事及び監事)

理事(副会長)	大岩泰彦 氏(鳥取県)
理事(副会長)	寺田信雄 氏(長崎県)
理事	岡山勝明 氏(徳島県)
理事	近藤光文 氏(大分県)
理事	諏訪義則 氏(鹿児島県)
監事	原田 守 氏(佐賀県)

(顧問)

瀧野欣彌 氏(一般財団法人地方財務協会理事長)再任

(名誉会員)

坂本長男 氏(前宮城県消防協会会長)
佐藤 茂 氏(前福島県消防協会会長)
中川 正 氏(前徳島県消防協会会長)

ヨーロッパ青少年消防オリンピック派遣事業 派遣選手団結団式及び国内事前研修の開催

(公財)日本消防協会

本年7月にポーランド共和国のオポーレ市で開催されるヨーロッパ青少年消防オリンピックに派遣する選手団の結団式、事前研修及び激励会を6月13日、14日に東京にて行いましたので、その模様をお伝えします。

事前研修では、実際の大会で使用されるヨーロッパ資器材を使った消防障害物競技や400m障害リレーの練習と現地でお国自慢として披露する阿波踊りの練習などを真剣に行いました。

日 程

練 習 内 容 等		場 所
6月13日(土)		
13:00～17:30	結団式 消防競技及び阿波踊りの練習	東京消防庁消防学校 (体育館)
18:00～19:30	青少年消防オリンピック 派遣クラブ激励会	東京ドームホテル (42階 ペガサス)
6月14日(日)		
9:00～11:50	消防競技等の練習	東京消防庁消防学校
11:50～12:00	閉会式	(グラウンド及び体育館)



激励会では、(一財)日本防火・防災協会 佐野理事長(前列左から5番目)、総務省消防庁河合地域防災室長(前列左から4番目)、東京消防庁 関防災部長(前列左から6番目)からご挨拶をいただきました



結団式では、秋本会長から日本代表として競技に参加し、ヨーロッパ各国の同じ年頃の仲間と交流を深め、決して忘れることのできない思い出を作してほしいことを伝えました。



派遣団を代表して、大野宣輝さん
(三郷市少年消防クラブ) からあいさつ



総務省消防庁から河合地域防災室長（前列左）
東京消防庁から関防災部長（前列左2番目）
選手団に激励のメッセージをいただきました。



規律訓練



ロープ結索訓練



お国自慢で披露する阿波踊りを徳島県「のんき連」の南條さんはじめ4名の方が手取足取りで指導



折り紙で「かぶと」「手裏剣」「鶴」を折りました。各国の青少年にぜひとも伝えたい日本の文化です。



三郷市 三郷市少年消防クラブ



日野市 日野消防少年団



鳴門市 うずしお少年少女消防クラブ



伊平屋村 伊平屋村少年消防クラブ



研修は2日間かけて、東京消防庁消防学校で行われました。事前研修修了後、選手は、地場で練習を積んで、いよいよ7月18日にポーランド共和国へ出発します。

第22回全国女性消防操法大会指導員研修会を開催

(公財)日本消防協会

平成27年6月10日(水)・11日(木)の2日間、横浜市消防訓練センターにおいて、第22回全国女性消防操法大会指導員研修会を開催しました。

この指導員研修会は、訓練礼式に精通し、かつ、消防操法の指導に経験豊富な操法指導適任者(各都道府県の代表1名)を対象に開催し、第22回全国女性消防操法大会の操法実施要領の統一を期すため、操法指導員研修会を実施いたしました。また、第21回全国女性消防操法大会で優勝した宮城県大和町女性消防隊の皆様展览展示隊としてご協力をいただき実施しました。



日本消防協会 秋山業務部長挨拶



大和町消防団長(宮城県消防協会会長)

平 渡 高 志 様

大和町女性消防隊

指揮者 蜂 谷 澄 江 様

1 番員 河 端 有 里 子 様

2 番員 千 坂 京 香 様

3 番員 菅 原 麗 瑛 様

4 番員 長 崎 美 里 様







1 はじめに

平成27年3月10日(火)、日本消防会館ニッショーホールにて挙行された「第67回日本消防協会定例表彰式」において、消防団として最高名誉である特別表彰「まとい」を受章いたしました。

全国2,000有余の消防団の中から、この栄誉ある表彰を本市消防団が受章できたことは、我々消防団員はもとより、新潟市民や本市消防団にかかわる消防防災関係者にとりましてこの上ない喜びであり、誇りとするところであります。

これもひとえに、昼夜を分かたず活動された消防団員の成果と、それを支えてこられたご家族皆様のご理解、ご協力の賜物であると衷心より厚く御礼申し上げます。

また、永年にわたり本市消防団の長い歴史と、輝かしい伝統を築きあげてこられた多くの皆様に対しましても深く敬意を表するとともに、重ねて感謝申し上げます。



2 新潟市の紹介

新潟市は古くから「みなとまち」として栄え、明治22年の市制施行以来、近隣市町村との合併によって人口約81万人となり、平成19年4月1日には本州日本海側初の政令指定都市となりました。

本市は、整備された高速道路網や上越新幹線により首都圏と直結しているなど、陸上交通網が充実しているほか、国際空港、国際港湾を擁し、国内主要都市と世界を結ぶ本州日本海側最大の拠点都市として高次の都市機能を備えています。一方で、広大な越後平野は、米のほか、野菜、果物、畜産物、花き類など、農畜産物の一大産地です。また、信濃川・阿賀野川の両大河、福島潟、鳥屋野潟、佐潟といった多くの水辺空間と里山などの自然に恵まれています。

3 新潟市消防団の紹介

本市消防団は、平成17年3月21日、周辺13市町村の消防団が合併し発足しました。

現在は1団8方面隊、73個分団で構成し、団員数は6,030人、消防車両は、消防ポンプ自動車35台、小型動力ポンプ積載車411台と機動力を誇る陣容となっており、団員は住民の生命、財産を災害から守るという崇高な消防精神のもと、地域防災力向上のため日夜訓練に励み、地域に根差した活動

を目指しております。

また、本市消防団は災害発生時には迅速に対応するとともに、規律正しく統制のとれた組織力のある消防団であると自負しております。

4 近年の災害

平成22年7月23日、午後12時37分に発生した新潟市秋葉区小須戸地区の火災は、市街地の特性として間口が狭くて奥行きが長く、敷地いっぱいに建物が建てられ、かつ、隣家と接している木造家屋、いわゆる「町家づくり」からの出火でした。

このようなことから、火の回りが早く、隣接する建物へ延焼拡大し、全焼22棟、半焼1棟、部分焼5棟、ぼや5棟の合計33棟が焼損する大火となりました。

この火災では、消防団員161名、小型動力消防ポンプ20台が出動し、常備消防（122名・33台）と緊密な連携を取りながら活動にあたり、地域防災の核としての使命を十分に果たした消火活動を行いました。



5 消防団の活動

消防団の教育訓練活動として初任団員教育をはじめ、女性消防団員研修も積極的に実施し、高度な知識と技術の習得、また人材育成に努めています。

さらに、春には消防団員としての基本で

ある消防操法訓練や、常備消防と連携して実災害を想定した応用的な訓練を実施するなど、災害対応力の強化を図っています。

また、市民の負託に応えるべく、自主防災訓練指導や高齢者家庭防火指導、幼児防火教育など、積極的に地域と密着した火災予防広報を展開しています。

加えて、より地域に根差した活動の振興を図るため、女性と学生の入団を積極的に推進しており、細かい気配りと若さあふれる活動を目指したいと考えています。



5 結びに

今日では、未曾有の大災害となった東日本大震災を契機に、地域に根差した活動を行っている消防団に対する住民の期待は大きく高まっている中、団員の高齢化も確実に進んでおり、若い団員の確保が喫緊の課題となっています。

今後も市民の期待に応えられる団員育成に努めるとともに、この度の受章を機に、消防団活動を積極的にアピールし、地域防災力の向上を推進していきたいと考えております。

結びに、この榮譽ある受章にあたり、格別のご高配を賜りました日本消防協会、新潟県、消防関係者各位の皆様へ改めて深く感謝申し上げますとともに、更なる発展とご活躍をご祈念申し上げ、受章のあいさつとさせていただきます。



「地域への恩返し」



札幌市中央消防団 団長 大石橋 順三

1 札幌市中央区の紹介

札幌市中央消防団が管轄する中央区は、北海道・石狩平野の南西部に位置する道都札幌の中心であり面積は46.42平方キロメートル、その形は東西に長く、東西15.3キロメートル、南北9.8キロメートルに及んでいます。この中にオフィスビルが建ち並び、関東以北最大の歓楽街“すすきの”があり、国際的なイベント「さっぽろ雪まつり」のメイン会場となる“大通り公園”また、“札幌時計台”や“北海道庁赤レンガ庁舎”など歴史的な建築物も多く残されています。山麓にはシロクマの繁殖で有名な“円山動物園”もあります。そして、来年の全国女性消防団員活性化北海道大会のメイン会場となる“さっぽろ芸術文化の館”も中央区に所在しています。

一方、自然も豊かで、街の中心を貫くように一級河川の豊平川が流れ、1972年に開催した札幌冬季オリンピックでは金銀銅を制覇した日の丸飛行隊を生んだスキーのジャンプ台がある大倉山などの山々があります。

2 札幌市中央消防団の紹介

明治5年(1872年) 開拓使判官岩村通俊による御用火事の際に延焼防止のため組織された「私設中川消防組」が札幌市中央消

防団の始祖であります。

その後、幾つかの改編を経て、昭和47年(1972年)札幌市の政令指定都市移行に伴う区政施行と札幌市中央消防団南苗穂分団の新設により、現在の札幌市中央消防団の機構となりました。現在は1本部、13分団、機械器具置場13箇所、軽可搬消防ポンプ9台、全消防団員数は243名(男性189名、女性54名)で、女性の割合が多いのが特徴で全体の2割強を占めています。

3 札幌市中央消防団の活動

札幌市中央消防団の活動は、1月の消防出初式で始まり、消防特別警戒、応急手当普及員再講習、大規模災害訓練、夏の消防訓練大会、各企業などからの要請にもとづく普通救命講習、中央区防災訓練、秋の応急手当普及員養成講習、そして、消防団長点検などで1年を締めくくります。

応急手当普及員養成講習や再講習は、応急手当指導員の資格を持つ団員が教官となり中央消防団独自で実施しており「自分たちのことは自分たちでやる」という当団の取り組み方針に基づき行っています。



4 地域特性を活かした活性化への取り組み



チカホで実施した「消防団長点検」

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」

の趣旨に符合し、地域的な特性を活かした独自の取り組みとして、消防団の活性化や人材確保のため、「いつも守り、知り尽くしているこの街」を活かそうと考えています。その一つがJR札幌駅から大通公園までをつなぐ地下通路で、通称“チカホ”と呼ばれる「札幌駅前通地下歩行空間」での取り組みです。都心の顔でもある全天候型のこの空間は、一日約8万人もの人々が行き交います。

ここでは、「入団促進キャンペーン」に合わせた「札幌市中央消防団入団促進活動」を、年末年始消防特別警戒期間中には消防団長点検をそれぞれ実施するとともに、さっぽろ雪まつりの協賛事業の「雪めぐり回廊」に参画して、団員手作りの消防団活動パネルを展示し、一人でも多くの市民に消防団を理解してもらうため活動しました。口頭での説明に加え、やはり「百聞は一見にしかず」とビジュアルにも工夫したところです。

また、「消防団は男の世界!」と思っている人も多しと考え、敢えて女性の制服を展示するなど、多くの市民に対し「女性も活動できる組織です」というメッセージを発信しました。

一番の成果は、多くの市民の前で団員が制服姿で活動する機会が増えたことです。

これにより、職責の再確認や市民に直接奉仕しているという充実感と満足感があったことです。こうしたことによって新たに入団者が増え、人材確保ができたことはもちろんですが、今いる団員がその存在と活動そのものにやりがいを感じ、生き生きとし、団全体が活性化につながったことです。私自身も、制服を着て実施したこれらの行事ではいろいろな面で感動を受け、中央区(チカホ)を管轄にする札幌市中央消防団員でよかったと思っており、このことは全団員共有の思いです。

5 おわりに

今年2月、さっぽろ雪まつりで賑わう中、チカホに接続するビルで火災が発生し、その煙がチカホに流入するという災害が発生しました。当時チカホにおいて入団促進キャンペーン中の団員が、濃煙の中を必死の覚悟で出火建物に進入して入館者を避難させるとともに、チカホを通る外国人や多くの観光客を地上に避難させ、一人の負傷者も発生させることなく活動にあたりました。私は、使命感のある団員の活動を心強く思いますし、中央消防団の各種イベントを支えてくれたチカホに少しは恩返しができると思っております。

これからも、札幌市中央消防団員は一丸となって自分たちの生れ育ったこの地を守り抜き、街全体に恩返しができるよう取組んでまいります。

また、来年の全国女性消防団員活性化北海道大会では、支援部隊の一員として「安全と安心のある最高のおもてなしの心」でお待ちしております。



「絆が生んだぼたんカード 地域ぐるみで消防団を応援」



南部町消防団 団長 板垣 雅英

1 南部町の紹介

南部町は平成18年1月に旧南部町、名川町、福地村の3町村が合併して誕生した町で、青森県の南東に位置しています。町の中央を流れる馬淵川周辺に肥沃な土壌が広がっており、水稲や野菜の栽培が盛んな農業を主要産業とする町です。町の南西部にそびえる標高615mの名久井岳の丘陵地帯では、寒暖差を生かした果樹栽培が非常に盛んなことから、「くだものの町 南部町」としても知られており、「みかんとバナナとパイナップル」以外の果物を楽しむことができます。



名久井岳と馬淵川

また、平成24年9月に「鍋条例（南部町笑顔あふれる明るいコミュニケーション推進条例）」というユニークな条例を制定し、鍋を囲んで食べるときの「フーフー」という語呂に合わせて、毎月22日に家族や仲

間と鍋を囲んでコミュニケーションを図り、地域の絆を深めています。

2 消防団の活動

南部町消防団は、旧町村にあった南部町消防団、名川町消防団、福地村消防団が町村合併時に統合して誕生。現在は、団長以下691名の団員が1本部33分団に分かれて、日々防災活動に取り組んでいます。平成26年4月には、南部町として初の女性分団が結成され、他の分団と同様に毎月2回の定時訓練を行っているほか、各家庭を訪問して防火啓発など積極的に活動しています。

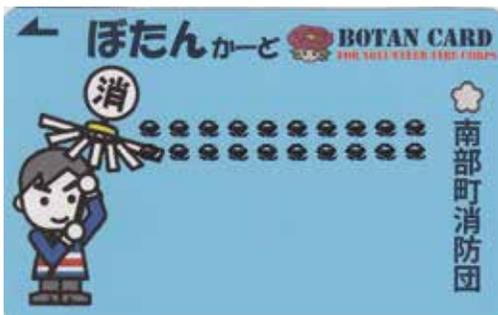
南部町では、タンク車5台、指令車1台、消防団用トラック1台、資材運搬車1台、ポンプ車22台、積載車5台及び総務省から貸付けされた救助資機材搭載型車両1台の計36台の車両を配備するなど、消防設備を充実させ、町の防災力強化を図っているところではありますが、近年は、進む少子化による若者不足に加えて、町外に勤務地を持つ方の増加による団員不足が問題になっており、団員の確保が喫緊の課題となっています。

3 団員確保のための取り組み

南部町ではそのような現状を踏まえ、町

内外97の加盟店で使用できるポイントカードを発行する「なんぶぼたんカード協同組合」とともに、消防団加入促進と、地域の経済活性化を目的に、通常発行の「ぼたんカード」に比べて多くの特典が付与された「消防団員ぼたんカード」を作成しました。（南部町では町の花を「ぼたん」としていることから、ポイントカードの名前に使用されています。）

「消防団員ぼたんカード」は発行時点で100ポイントが付与されており、満点（400ポイント）になったとき、通常のぼたんカードが500円分の金券として使えるところを、倍の1,000円分の金券として使用できるものです。



消防団員ぼたんカード

「消防団員ぼたんカード」は、平成27年1月に行われた出初式の中で消防団に贈呈された後、団員一人ひとりに配られ、平成27年4月には満点となって次のカードを要望する声も上がってきています。

今回「消防団員ぼたんカード」の作成に携わっていただいた、なんぶぼたんカード協同組合の吉田



観閲式で行進する女性消防団員

裕理事長からは、「消防団の活動を側面から支援していきたい」という心強いお言葉もいただいております。消防団は、今後も町や町内各団体のご協力をいただきながら、消防団の加入促進、設備の整備を進め、「災害に強いまちづくり」の実現に努めて参ります。

4 終わりに

近年、昔には見られなかった異常気象が多く見られるようになり、火災発生時はもちろんのこと川の氾濫や土砂災害など、消防団の活動が増えるにつれて、その重要性も再び注目されているところであります。町内各団体から様々なご協力をいただいているのも、我々消防団への期待の表れだと感じ、身の引き締まる思いです。

今後も、より一層日々の訓練に力を入れて取り組むとともに、地域防災力の中核として、また「共助」の一端を担う組織として、日ごろから自主防災組織や地域住民の方々との繋がりを大切に、「絆」をもってあらゆる災害にあたる所存であります。



「笑顔きらめく“ほっと”な まち-あげお」



上尾市消防団 団長 鈴木 博

1 上尾市の紹介

上尾市は埼玉県の南東部に位置しています。昭和33年7月に上尾市が誕生した当時の人口は約3万7,000人でした。また、平成25年には市制施行55周年を迎え、現在は人口約22万7,000人。上尾市では、時代の変化に対応しながら市民が満足できる都市の姿を形づくっていくこととし、「笑顔きらめく“ほっと”なまち-あげお」をスローガンに、新たな時代に向けたまちづくりに取り組んでいます。

また、上尾市の平方地区には八枝神社を中心とした祇園祭、「平方祇園祭どろいんきょ行事」があります。この祭りは、埼玉県指定無形民俗文化財に指定されており、毎年7月の海の日の前の日曜日に行われる奇祭で、疫病退散や五穀豊穡を祈願する夏祭りです。



平方祇園祭どろいんきょ行

2 上尾市消防団の紹介

上尾市消防団は、昭和30年に3町3村を合併し、上尾町連合消防団として発足、常備消防団員2名、消防団員873名となりました。その後、昭和33年4月に消防機構改革を行い、名称を上尾町消防団に改め8ヶ分団に縮小、常備消防団員4名、消防団員163名となりました。同年7月、市制施行に伴い、名称を上尾市消防団に改めました。

3 上尾市総合防災訓練

毎年8月には市内の小学校において「上尾市総合防災訓練」が開催され、上尾市消防団も訓練に参加しています。消防団の役割は「消火器を使った初期消火訓練」で、消火器の取り扱いを市民の前で展示・指導し、「中高層建物火災の後方支援活動訓練」では、消防署の職員と合同で要救助者の救出を支援しました。

そして防災訓練を締めくくる「一斉放水」では、参加消防団員全員による、安全かつ迅速な放水訓練を見せることができ、参加市民からは大きな拍手が起こり、更なる信頼を得ることができました。



上尾市総合防災訓練

4 上尾市成人式において消防団員募集

市民の安心・安全を守る身近な存在としての消防団員は、全国的に減少傾向にあり、消防団員の確保は防災力の強化を図るうえで大きな課題となっています。上尾市においても、消防団員の入団促進に向けて様々な施策を講じているところですが、定員を下回っている状況が続いていることから、上尾市の成人式において、埼玉県、埼玉県消防協会、上尾市消防団が共催して消防団員の入団勧誘PRを実施しました。



上尾市成人式において消防団員募集

5 おわりに

上尾市消防団では、「自分たちのまちは自分たちで守る」という基本理念に基づきこれからも、市民の皆様の安心・安全のために邁進する所存でございますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



埼玉県消防操法大会（準優勝）





「地域防災力の中核として欠くことのできない存在 消防団」



邑南町消防団 団長 細貝 輝男

1 邑南町について

邑南町は島根県のほぼ中央に位置し、面積は419.22km²、人口は4月末現在で11,406人の県内で最も面積の広い町です。平成16年10月1日に旧羽須美村、旧瑞穂町、旧石見町の三町村が合併し誕生しました。

昨年合併10周年を記念して、シンガーソングライターさだまさしさんに、邑南町イメージソング「さくらほろほろ」を制作していただいたほか、町のマスコットキャラクター「オオナン・ショウ」も誕生しています。



邑南町マスコットキャラクター「オオナン・ショウ」

平成23年度より「日本一の子育て村を目指して」を町政の柱の一つに掲げ、「子どもを産み育てやすい環境づくり」を目指した取り組みを続けています。

またもう一つの柱として「A級グルメ立

町」を展開しています。農と食に重点を置き、地元産の一流の食材を使い、一流の食の提供を通じて、地元に誇りを持つとするものです。実際に素材工房「味蔵 (ajikura)」でおいしい邑南町の食を味わうことができます。是非皆様お越し頂ければと思います。

2 邑南町消防団の概要

邑南町消防団は、合併後、旧町村の消防団組織を維持しながら統合し、現在の消防団が発足しました。

現在は12分団19部、団員544人（定数580人）で活動を行っています。本団は団長、副団長及び女性消防団員で構成され、分団は分団長、副分団長、部長、班長及び団員で構成されています。各分団に消防ポンプ自動車8台と小型動力ポンプ積載車23台の計31台を配備し、地域防災力の向上に日々取組を実施しているところです。



3 平成25年8月24日豪雨災害について

平成25年、夏も終わりかけた8月24日の未明、昭和58年災害に匹敵する集中豪雨が邑南町を襲いました。明け方にかけて町内各所で土石流や崖崩れ、河川のはん濫が発生しました。住み慣れた家屋や生活基盤である道路、生活の糧である田畑は一瞬のうちに変わり果てた姿となりました。そしてこの災害の裏側では、団員の皆さんによる30数カ所に及ぶ土のう設置作業や独居老人等の安否確認、避難所への誘導など、団員の皆さんのめざましい活躍がありました。今後もこの経験を活かし、邑南町消防団員一丸となり消防団活動に精進していきたいと考えています。



平成25年 8月24日豪雨災害時団員による避難誘導の様子

4 おわりに

近年、全国的に大規模な災害が多く発生しており、消防団員への期待はますます高まっています。邑南町においては、町内39の自治会での自主防災組織の結成と、防災士の資格取得100人を目標に取組を進めています。こうした地域防災力の向上とともに、我々、邑南町消防団員は「自分たちの地域は自分たちで守る」という消防団の基本理念のもと、地域防災の中核として活動していきたいと考えています。



水防訓練で積土のう工を実施する団員





シンフォニー（大分県） 「ファイヤーレディース21 ～私たちだからできること」

大分市消防団 女性分団 副分団長
鳥居 登貴子

北は別府湾、東は豊予海峡に面し、西から南にかけて高崎山をはじめとする山々が連なる大分市は、大分駅周辺の再開発により近年賑わいを見せる都市環境と雄大な自然環境とが融合した県都です。

平成10年9月1日、大分市女性消防団（通称「ファイヤーレディース21」）は18名の団員で

スタートしました。当然ですが、発足当時、私たちの存在は市民の方に知られておらず、「私は女性団員です。」と自己紹介をしても、「えっ、女性なのに消防士さんなんですか。」と言われることもありました。

まずは、私たちの存在を知ってもらおうと、発足当時のメンバーで何度もミーティングをして、女性団員の活動が充実するようにと知恵を出し合い、機会あるごとに消防関係のイベントに参加するなど、積極的に活動をしてきました。特に思い出深いのは、保育園や幼稚園を訪問して子どもさん達に防災に関する紙芝居を読んだり、秋の火災予防週間中に幼年防火クラブの園児の皆さんと「火の用心」を呼びかけながら商店街



保育園での防災講話

をパレードしたことです。子どもさん達が、キラキラした目で懸命に私たちの話に耳を傾けてくれたり、明るい笑顔と一緒に「火の用心」の呼びかけを行っている姿をみて、参加した団員は、女性団員になってよかったと実感できたのではないかと思います。

現在でも、「地震が起こった時にはどうすればいいと思う?」、「花火をするときは大人の人と一緒にして、必ず水バケツを準備しようね。」「大切なものを燃やしてしまうかもしれない火遊びは絶対にダメ。」など、子どもさん達と一緒に学び、注意を呼びかけることで、幼年期からの防火・防災意識の形成に少しでもお役に立てればと、活動を続けています。

平成21年には、小型ポンプ操法の全国大会に大分県代表として出場しました。5ヶ月程度の短い練習期間で、まったくの初心者集まりにも関わらず、消防職員の方々の熱心なご指導と選手以外の女性団員の手厚いサポートのお陰もあり、県代表として全力で大会に臨むことができました。



消防出初式 行進

5年ほど前からは、大分市中心部で行われる「大分七夕まつり」でチキリンばやしの踊り隊として参加しています。親子で参加する団員や、男性団員も加わり、にぎやかに大分市消防団をPRしています。

また、こういったイベントに参加する傍ら、応急手当指導員の資格を取得し、救急講習の講師として活動してきました。今では、資格取得者も増え、年間100回、延べ300名程度の団員が出向して、市民の方に講習を行うまでになりました。講師としての責任や、家庭との両立で、大変だと思うこともありますが、救急講習の受講者の中から、「私も皆さんと一緒に活動したいです。」と言って入

団してくれた団員もいて、大変うれしくやりがいを感じているところです。

近年、甚大な被害をもたらす自然災害が多く発生しています。私たちは、火災現場に行くことはありませんし、災害時に前面に立つこともありません。だからこそ普段から、災害を未然に防ぐ「防災」や災害が起こってしまった時の「減災」について学び、いざという時は、習得した応急手当や傷病者の搬送をどのように活かすのか、女性ならではの視点から私たち女性消防団だからこそ実践できることはなにかを団員同士で話し合い、追求していくことが大切だと思っています。現在、発足から16年以上が経ち、団員も29名と増えてきました。今後も、活動の場をさらに拡大し充実すべく女性団員一同一致団結して頑張っていきたいと思っています。



救急講習

消防団員の地域への想い、団員になって良かった話を編集した「消防団の思い出宝箱」を作成

愛知県豊田市消防団

1 「消防団の思い出宝箱」事業の内容

消防団員から募集した、こころ温まる話やエピソードなどを冊子にして、イベントや地域の施設などで市民へ配布することで、消防団のPR活動を実施しています。

(1) 作品集の完成までの経緯

平成27年3月15日(日)新☆豊田市誕生10周年プロジェクト記念事業「豊田まるごと消防フェスタ」の開催に合わせて、平成26年9月から12月にかけて消防団員から、こころ温まる話やエピソードなどを募集し編集したものを同フェスタの会場等で配布しました。

(2) 作品集の内容

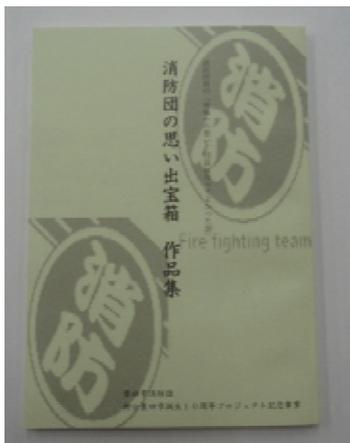
作品集では、消防団員が、本来の仕事を持ちながら地域の協力や家族の応援に感謝し、地域のため、市民のために活動する消防団員の様々な偽りのない胸の内が綴られています。

(3) 作品集の配布実績

ア 市役所、支所などの市内公共施設を通して市民に提供

イ ケーブルテレビ、ラジオ、新聞などのメディアを活用した広報

ウ 豊田まるごと消防フェスタ(来場者数6,500人)で消防団員による「消防団の思い出宝箱」の朗読



「消防団の思い出宝箱」冊子



消防団の思い出宝箱の朗読の様子

2 豊田まるごと消防フェスタ

豊田市、豊田市消防団、豊田市防火危険物安全協会、豊田市女性消防クラブ連絡協議会は、新☆豊田市誕生10周年プロジェクト記念事業「豊田まるごと消防フェスタ」を平成27年3月15日、同市内のスカイホール豊田で開催しました。

現在の豊田市消防団は、市町村合併によりそれぞれ異なる伝統と歴史をもった7つの消防団が一つとなり誕生しました。

このイベントは消防の合併10年を振り返るとともに消防団の魅力を発信し市民との交流を深めることで、市民が防火・防災力を身につけ安全で安心な豊田の未来を築くために実施したものです。

はじめに消防団観閲式が開催され、その後イベントのオープニングセレモニーとして、消防団階梯隊演技の後、豊田市長、市議会議長などによるテープカットが消防団ラップ隊のファンファーレとともに盛大に行われました。また、メイン会場(ホール)では、女性消防団員によるカラーガード隊“ひまわりフェアリーズ”の演技や消防団員によるファッションショーなどが行われイベントに華を添えました。



消防団観閲式



消防団観閲式



オープニングセレモニー



階梯操法披露



会場内の様子



消防ファッションショー (モデルは消防団員)



あいち消防団PR大使「OS☆U」ショー



消防未来宣言



愛知県豊田市消防団のイメージキャラクター「たすけくん」

3 消防団の思い出宝箱（作品の抜粋）

新しい仲間

豊田市在住の上司に誘われ、私は消防団へ入団しました。

愛知県出身でない私にとって、豊田市の生活は自宅と職場の往復という単調なものでした。しかし、操法大会への練習、地元行事への警備、防災啓発活動という消防団活動によって、私には新しい「仲間」ができました。

そして、新たな「ふるさと」ができました。

消防団員は、本当に時間的拘束や体力的にも厳しい面もあります。しかし、活動を通じて得るものは、この反面とても多いと思います。

「転入者」こそ、「仲間」と「ふるさと」を手に入れるため、消防団に入るべき、と私はオススメします。

豊田市消防団 第1方面隊 第1分団 第3部 部長 和田 祐哉

家族の支え

「パパカッコいいね」「暑いのに大変だねえ、ありがとう」「いつもご苦労様です」

訓練に向かうために着替えている私に、5歳の息子が声を掛けてくれる。地元のお祭りの駐車場係をやっていて、おじいさんが声を掛けてくれる。ポンプ点検をしていて声を掛けてくれる隣のおばあさん。

家族や地域の方からのこういう声を励みに消防団活動を頑張っている。幸いにも、これまで実際の火事や災害に出動したことはない。消防団活動は、いざというときのための訓練と、地域のイベントを駐車場係などの裏方として守り、そういう形で地域全体を支える活動だと思っている。休日出勤の消防団活動に笑顔で送り出してくれる家族。他の地域から来た私に、声を掛けてくれる地域の方。それら私を支える大切な人たちを守るために、これからも消防団活動を頑張っていきたい。

豊田市消防団 第4方面隊 第18分団 第2部 部長 小林 健吾

家族の協力

大学を卒業後、地元に戻り消防団に入団しました。今年で入団10年目を迎えようとしています。現在、部長を任されていますが、入団式で同級生に多く会い、とても懐かしかったことを今でも覚えています。入団してすぐに新入団員の規律訓練がありました。休め、気をつけ、回れ右など基本動作を学びました。他地区の団員とも交流ができ、非常にためになる訓練でした。初めての消火活動では、日頃の消火訓練と動きの違いに戸惑いました。そのため、日頃行う訓練にもっと真剣に取り組まなければと感じました。

その後も多くの訓練に参加させてもらいました。分団全体で取り組んだ中隊訓練では、ひとつの目標に全員で向かうことの難しさや、やり遂げたときの達成感を味わうことができました。暑い日も、寒い日も、雨の日も一緒になって汗を流し練習してきた仲間と絆を深める良き機会となりました。

自分の消防団活動で、一番心に残っているのが「豊田市小型ポンプ操法大会」です。「選手として出てみないか?」と当時の部長に言われ、即答「はい!」。しかし、簡単に返事をしたのは裏腹に、問題がありました。それは、家庭をもっており、夜間練習には家族の協力と理解が必要ということ。共働きということもあり、妻が納得してくれるか心配でした。妻に経緯を話し、参加したいと告げると「いいよ、参加しなよ。地域のために頑張る。」と後押しの言葉が……。涙が出るほど嬉しかったです。そして、指揮者として出場することになり、週3回の練習に励みました。規律訓練に重点をおき、操法の手順、点呼などを練習しました。他の選手4名と高い志を持ち、目標に向かって努力したことを覚えています。「いざ、本番!」と意気込んでいた当日、なんと同じ地区で火災が発生。早朝から消火活動をするようになりました。水利を確保するために、小川を土嚢でせき止め、小型ポンプからホースを7本つないでの活動でした。結局、大会に出場することはできませんでした。しかし、それまでに練習してきた操法訓練が実際の火事現場でいかされ、練習してきてよかったと実感しました。

これからもいろいろな訓練や活動があります。その都度、理解・協力してくれる家族の支えに感謝し、同じ分団の仲間と協力して今後も消防団活動を積極的に頑張りたいです

豊田市消防団 第5方面隊 第4分団 第1部 部長 安藤 司

自分の役割

今年(2014年)の4月より、故郷である旭地区へのUターンをきっかけに、地元の消防団に入団しました。

「過疎」という大きな問題を抱える旭地区。都市部に比べ若者も少なく、Uターンをすれば必然的に消防団加入、さらには1人1人にかかる期待も大きくなるため、今までの生活との両立がうまくできるかどうか、Uターンに際しての不安要素のひとつでした。とはいえ、Uターンしておきながら消防団に加入しないのもばつが悪いからと、「近所付きあいの円滑化」を目的に消防団への加入を決意した。というのが正直なところです。

そのようなモチベーションで入団し、約半年が経過。この短い間に様々な訓練や出動を経験する中で、自分の住む地域や人々を守る、という消防団の本来の役割の大切さに気づきました。また、団員の中には「実家があるから」という理由で、自らは旭地区に住んでないにも関わらず出動要請があった際には遠方からかけつけるという、意識の高い人々の存在を知り、入団前の自分の考えに少々のはずかしさを覚えました。入団から半年。これからも、地域における自分の役割について考えながら、1人の消防団員として、学び多き日々を送っていきたいと思います。

豊田市消防団 第9方面隊 第5分団 第1部 団員 木浦 敦

地域防災拠点機能を有した消防分団詰所の竣工

愛知県瀬戸市消防団

瀬戸市は愛知県尾張地方の東部に位置し、1,300年の歴史を持つ「やきもの」の町として発展してきました。

この度、老朽化に伴い建替工事を進めてきた消防分団詰所が完成し、平成27年3月29日（日）に竣工式を行いました。

新しい詰所には、消防団と地域住民が災害時はもちろん、平常時にも地域防災について取り組むことができる多目的会議室や、非常電源、非常照明設備等の地域防災拠点機能を盛り込んだほか、屋内ではしご乗り演技の訓練ができる施設となっています。

また、詰所がある道泉地区は、瀬戸染付焼の技法を生み出した磁祖・加藤民吉ゆかりの地であることに因み、外壁には瀬戸染付焼伝統工芸士が手掛けた青と白の市松模様や、消防団のシンボルである法被や纏等のデザインを取り入れたタイル板を取り付けました。

1 庁舎概要

構造:鉄筋コンクリート造2階建て 敷地面積:351.85㎡ 延床面積:177.34㎡

2 主な施設・設備

多目的会議室、防災資機材倉庫、屋外放送設備、非常電源(1,600W)、非常照明設備、雨水タンク(227ℓ)



テープカットの様子



多目的会議室

少年消防クラブ指導者交流会での活動報告

(一財)日本防火・防災協会

西町少年消防クラブ(北海道札幌市) 屋木 妙子

西町少年消防クラブは札幌の北西に位置する西区の中心部を拠点に活動しており、結成は平成元年5月27日で、今年で27年目を迎えます。明治5年北海道開拓使が入植してから143年、クラブ員が通う小学校もその頃に開校した開拓精神の息づく町です。また、サッカーJ2のコンサドーレ札幌の練習グラウンドがあり、地域にスポーツが密着した、子どもたちにとって理想的な環境が整っている土地柄です。

西町少年消防クラブは、中学生が2名、小学生が22名、幼稚園生も2名引き受けて、計26名で活動しています。指導者は10名で、消防団員とクラブ員OBで構成され、実践的な指導とクラブの伝統をつなぐ役割を果たしています。また、中学生は札幌市では、準指導者として位置づけられ小学生を見守り、活動を率先して行う良き先輩です。

次にクラブの活動は、4月に連合町内会区域に回覧をまわしてのクラブ員募集に始まり、6月の入団式ではクラブ員の顔合わせ、リーダー、サブリーダーの決定、入団記念に消防署、出張所の庁舎前プランターに花を植え飾ります。

8月は、設立以来続けている1泊研修を

行います。この研修では消火器の取扱い、放水訓練、心肺蘇生法といった消防活動を学ぶと共に、地区会館に場所を借りて寝袋での宿泊、指導者や保護者と共に食事を作るなど避難生活の模擬体験を行います。仲間や地域の大切さ、防災リーダーとしての自覚を学ぶ良い機会となっています。また、西区内の5つのクラブが合同の研修会を開催し交流を図っています。その成果として、札幌市の消防学校での市民公開デーに、日頃訓練してきたロープ結索の合同訓練を披露しました。その歳、幼稚園のクラブ員も参加し、立派に成果を発表できました。歳末には、市民に防火を呼びかける防火パトロール、近く的大型商業施設での火災予防広報を行っています。また、札幌市は地上式の消火栓のため冬は大雪で埋まります。一般住宅近くのもの、住民が雪を除けますが、そうでない場合は、クラブ員が参加して消火栓除雪を行っています。





次に消防出初め式では市民の前で AED を使用した心肺蘇生法訓練を行いました。クラブの活動を多くの市民にアピールすることができクラブ員にとっては自信と誇りを得る貴重な体験となります。他にクラブ員の知識向上のため、消火栓を使っての放水訓練や訓練用の AED と人体モデルを使った地元の中学 2 年生全員を対象とした救命講習などを行い、救命救急の普及活動に努めています。講習では修了証が発行されるため次につながると思います。

3 月には、小学校卒業に合わせてクラブの卒団式を行い、この中から毎年何人かが中学生クラブ員の準指導者としてさらに活動していきます。

今後の活動と課題ですが、当クラブは楽しく火災予防を学びましょうを基本として活動していますが、現在の少子高齢化の中、クラブ員の減少や指導者の高齢化といった課題に取り組まなければなりません。また、地域は地震、崖崩れ、津波といった大きな災害に襲われることの少ない地域であることから、災害に際して津波があるから逃げようというような危機感が持

ちにくいといった課題もあります。これらの課題を解消するため容易ではありませんがクラブ員の子どもたちが卒団後も地域活動に関わり、自分自身や家族、地域を守ることが大人になってもできるように、あと押ししていきたいと思います。



大和市少年消防団 (神奈川県大和市) 田中 一哉

神奈川県中央に大和市はあり、縦が 9 km、横が 3km、27 平方キロ、人口が 23 万人です。ただ人口密度は横浜とほぼ同じくらいあり、県内では 2 位です。

さて、現在 106 名団員がいる大和市少年消防団は、平成 5 年に、団を支える運営委員会を設立して予算面や活動面での支援体制を整え、小学校 4 年生から 6 年生までの募集を行い同年の 7 月 11 日に発足しました。火災予防とともに防火マナーを身につけた社会人の育成を目的としています。

また概ね 20 年を過ぎる頃から、消防庁の「特に優良な少年消防クラブ」などの表彰を受けました。表彰されたことで、広報、イベントなどで市民の認知度も高まっており、表彰にふさわしい活動と指導をし

ていきたい。また指導で大事にしている言葉があります。東京消防少年団の発足のときにつくられた「私たちは火の用心につとめます、私たちは礼儀正しくします、私たちは約束を守ります、私たちは自分のことは自分でします、私たちは素直にします、私たちは互いに助け合います、私たちは常に感謝の気持ちを忘れません」、これを普段から団員たちに意識させながら指導しており、活動面の柱として取り入れています。これは人として必要な生涯の目標であり、消防の技術よりまずその土台をしっかり固めることが、大切であると考えているからです。

団員数は、発足の年から40名程度が続いていたが、東日本大震災や少年団の20年記念のときに募集に力を入れ、その後70数名、3桁、そして来年は139名の入団応募がありました。延べで1,200名を超える団員が来年度の終わりには卒団していくこととなります。「なぜ大和はそんなに人いるの」とよく聞かれます。教育委員会と連携して入団期の募集の前にチラシを配付しています。そしてQRコードをチラシにつけてすぐその場でクラブの活動を見ていただいています。そのQRコード



は、大和市のホームページにつながっており、その中で活動を詳しく見ていただく形にしています。

活動は、年間25回行っており、消防職員が全面的にバックアップし、各事業の企画運営も行っています。この活動の動画をつくって、入団の募集のときに大和市のホームページ上の動画チャンネルで流しています。実はDVDも職員手づくりです。



4月を迎えると、クラブ員は非常に緊張してきますが。そのときには「緊張は大事だよ、その勇気を持って1歩踏み出すことでみんな成長するのだから、1人ずつ責任をしっかりと持って頑張ろうね」と言っています。

指導員は現在28名います。この指導員は小学校を卒業し、卒団すると中学生が指導員、高校生を上級指導員、高校卒業以降をチーフ指導員、社会人の方もいます。指導員は、研修場所に事前に行き、そこで指導員の研修をし、下見をして、危ないところ、団員が来たらどのようにフォローするかを事前に学びます。

27年度目標としているのは「生

きる力を育む」ということです。昨今いろいろな災害が起きています。その中で自ら考えて行動することが非常に重要になってくる。雷が鳴ったらどうする、集中豪雨のときはどういうところ歩いたらいいのだろう、こういった日々の中から自分で判断して生きる力を磨いていき、育んでいきたい。防災マップ、AED マップは市民の誰もが手に取ることができるが、こういった誰でも入手できる教材を使って、勉強させていこうとも考えています。

今年度整備した資器材のミニ消防車は、少年消防団用ではなく、火災予防として消防本部に市内の企業に寄贈いただきました。あとは軽可搬ポンプと少年消防団の防火着の上下が30着ほどあります。ということで装備についても非常に恵まれた団であると思っています。

今後の課題は、市内の小中学校の防災教育との連携です。子どもたちは市内の小中学校の生徒ですから、我々と先生の言うことが違っては困ります。また学校の防災訓練では少年消防団の子どもたちが、普段どんな活動しているかを聞かれることがあり、そういった少年消防団への理解もすすめていきたい。また、地域の顔の見える消防団との連携もしっかりやっていこうとしています。

我々の活動の支えである指導員は、これから大人になる中で自分の職業を選択していくので、研修を組むときも、いろいろな見識を深めてもらうようにしたい。少年消防団員から指導員になって消防職員に2人、消防団員にも1名か2名なっています。こういう形で、上手くスパイラルが続いていくことが我々の目標でもあります。



小屋瀬少年消防クラブ (岩手県葛巻町) 中山 優彦

葛巻町は岩手県の盛岡市と「じぇじぇじぇ」のあまちゃんのロケ地である久慈市の中に位置している町です。とても寒い地域で、昨日、一昨日も-18℃くらいになりましたが本州で一番寒いと言われていた盛岡市の藪川から山を1個、2個越えたところです。

少年消防クラブは昭和57年5月9日に結成されました。それ以前から母体として葛巻地区森林愛護少年団があり、これに被せるような形でクラブが結成されました。また、子どもたちに防犯の意識も持つてもらうための防犯少年隊を含む3つの組織を兼ねた少年団として活動しています。



少年消防クラブでは、4月の上旬に、5月に開催される葛巻町消防団の一大イベント消防演習のプログラムに組まれた少年消防クラブの軽可搬ポンプ操法に向けた練習が始まります。消防演習で行ったポンプ操法を地元の運動会の際にも地域の方々に披露しています。総合防災訓練は、8月末から9月上旬にかけて行われ、その前の6月から7月、盛岡中央消防署葛巻分署と県の防災ヘリ、レスキュー隊との合同訓練でヘリコプターの搭乗訓練が開催されますが、当クラブも参加し、一緒に訓練を行っています。総合防災訓練にも毎年招待を受け参加し、その中で1日消防団長とか1日分署長をつとめ、また消防団と一緒に防災訓練をやるということで、その臨場感や緊張感を味わっています。

次に、5月の末に、町の植樹祭で森林愛護少年団ということで植樹活動を実施しています。林業の町でもあり、森の大切さを学ぶということで、化石燃料ではなく薪を使ったエネルギーをもっと使っていくことを学ばせています。7月末には、岩手県の林業の盛んな町の八幡平市、当葛巻町、住田町の3市町村で緑の少年団大会が行われます。来年度は葛巻町で開催予定です。

9月半ばに岩手県消防学校の学校公開があり、見て学ぶ、やって学ぶということで子どもたちに体験をさせています。10月に入ると、「薪・牧・巻トリプルフェスタ」という3つのマキに絡めたイベントが行われています。これに参加して山の職人たちと薪を切ったりして交流をしています。ま

た、岩手では「まきばの感謝祭」があり招待を受けて活動報告などを行っています。3月と11月に地元の消防団で春と秋の火災予防運動中に火防点検という活動が行われ、消防団が各家庭を訪問して防火の啓発をする際、子どもたちを同伴させて、地元の皆さんに顔を覚えてもらっています。



3月の末に防犯少年隊の活動で、警察署へ行きいろいろな防犯についての体験をさせたり、護身術の体験もしています。

3つの活動によりバランスのいい体験ができていますが、まだまだ活動としては足りないところもあります。子どもたちにあまり負担をかけられないので、上手く整合を図りながら今後も続けていきたいと思っています。私どもの育成会の土谷会長は、現在82歳ですが、会長の口癖が「学校を巻き込んだ活動になると先生方に任せたくなるが、絶対それは辞めろ」、「育成会の人たちでいろいろな活動を提供してやりなさい」ということです。それを心に命じて今後も活動を続けていきたいと思っています。



上川口少年消防クラブ (高知県黒潮町) 林 文彦 氏

黒潮町は高知県西部に位置しており太平洋に面しています。人口は約1万2千人、5,600世帯が暮らしており主な産業は農業や漁業になります。自然の恵みをたっぷり受け、美しく白い砂浜が4kmにわたって広がり、観光やサーフィンで訪れる方が沢山います。温暖な気候で住民はとても元気ですが、高齢化はかなり進んでいます。一面に太平洋が広がる黒潮町は鯨の見える町でも有名で、また、日本一の漁獲量を誇る鰹船団もあります。



そんな黒潮町ですが、平成24年に南海トラフ地震を想定した最大津波が34mという国の想定が発表されました。発表直後は、数字に本当に率直に驚きましたし、私

の家も海から数十mしか離れてないので、恐怖を感じていました。発表直後は34mに混乱した黒潮町ですが、ぶれない基本的な考え方を策定し情報を精査して問題を細かく分析し、短期、中期、長期的な計画のもと対策を進めています。

黒潮町には、地区として隣り合った上川口少年消防クラブと伊田少年消防クラブという2つの少年消防クラブがあります。いずれも小学校区の子ども会をベースに、平成23年1月1日に正式発足しました。ただ、生徒数の減少に伴い今年度から伊田小学校が休校となり、伊田少年消防クラブの子どもたちも上川口小学校に通学しています。

上川口少年消防クラブですが、上川口小学校区の子どもの内4年生~6年生全員がクラブ員で、現在20名です。伊田少年消防クラブと一緒に活動も多く、黒潮町の2つのクラブの活動ですが、1月は消防出初め式。式典へ参加し、消防団と一緒に服装点検を受けたり、隊列行進をして地区の消防団、消防車と一緒に町をまわりながら防火、防災を呼びかけます。防災とボランティア週間の活動として、国道を通行中のドライバーを対象に防火、防災の啓発物を配布します。4月のクラブ員引退を経て、7月に消防署1日体験として、はしご車や救急の体験をします。8月には1泊2日の防災キャンプを行い、避難所運営の体験を兼ねて段ボールで間仕切りを、空き缶でランタンをつくったり、体育館では段ボールをひいて寝ました。11月は防災関係機関が連携した「子ども防災フェス」を開催しています。12月は夜警、消防団員と共に火の用心の夜回りをしています。

次に、クラブ以外での防災活動です。先の東日本では「釜石の奇跡」と呼ばれた、子どもたちが自分の命を守り、さらに周囲の命を守った事例があります。子どもたちへの防災教育は重要な対策の1つで、上川口小学校は高知県からの防災指定校として防災教育に熱心に取り組んでいます。避難訓練を中心に多彩な取り組みを行っており、県所有の起震車で地震体験、避難するための体力づくりとしての毎朝の校庭でのマラソン、教室では地震が起きた時の机の下に入る訓練。給食の時間も訓練をします。子どもたちには内緒で、下校中にも訓練をしました。海沿いを帰る子どもが沢山いるため、そのときにどうするかということ意識付けさせようとしています。どのような時間、場所でも安全な場所に自分で避難します。子どもたちが子どもたち同士で避難の方法について考えています。学校の校庭で保護者の方や地域の方と炊き出し訓練をしたり、小学校にはプールがなく、水泳の時間は近くの川で泳ぎます。それで上級生と保護者の方も監視員として出なくてはならないので、シーズン前には親と子に消防署による救命講習の訓練をします。日赤にも応急救護の方法を学びました。活動は、様々な取り組みを保護者の方や地域の皆さんに発表し、それをみんなで共有していくということに尽きると思います。津波に対して命の危険があるという事実も分かって欲しいと思います。

最後に短歌を2つご紹介します。

「大津波 来たらば共に死んでやる 今日
も息が言う 足萎え吾に」。この句は津波が来ることへの避難の諦めが伺える句です。もう1つ。「この命 落としはせぬ

と足萎の「我は行きたり 避難訓練」。一方こちらは避難諦めない命を落とさないという決意がみられます。

黒潮町では避難放棄者を出さないことを重要な目標にしています。町全体で取り組んでいる地震、津波対策で、2つ目の短歌のように避難を諦める声は少しずつ減っています。しかし未だに避難を諦める声があることも事実です。実は2つの短歌を詠んだのは同じ人物で、黒潮町在住の82歳の女性です。1つ目の短歌は、想定発表直後。2つ目の短歌は防災対策に取り組んでいる中で最近詠まれた句です。防災に取り組む中、意識に変化が出て災害を前向きに捉えられるようになりました。82歳の方がこれだけ変わったのです。子どもは尚更意識を素直に持つことでしょう。次世代を担う子どもたちに正しい防災意識を持ってもらう、私たち大人がすべきことはその手助けをすることだと思います。私たちは防災教育を子どもに続けます。子どもは10年経てば大人になり、さらに10年経てば親になります。しっかりした防災意識を持つ親のもとで育つ子どもはしっかりとした防災意識を持っています。防災が当たり前になる文化をつくっていきます。その一端を自分たち少年消防クラブが担っていければと考えています。

**吉松少年消防クラブ(鹿児島県湧水町)
正竹 亮太 氏**

鹿児島県湧水町は鹿児島県の北東側にあり、宮崎県と隣接している場所でもあります。平成17年に旧栗野町と旧吉松町が

合併して湧水町となり、人口は約1万人と小さな町です。湧き水の綺麗な池があり、湧き出る水ということで湧水町と命名されました。また、その池は丸池といい日本名水百選にも選ばれています。産業としては農業が主であり、湧水米、金山ねぎ、お茶、椎茸などが特産品となっています。

湧水町吉松少年消防クラブは、平成20年5月に発足、当初は28名でスタートし現在は18名で活動を行っています。消防に関する活動を体験しながら町内の火災等の災害を未然に防げるようにクラブ員全員で広報などのPR活動を行っています。



1月は消防出初め式に参加し地元の消防団員、婦人防火クラブ、各自治会で構成される後方支援隊、幼年消防クラブとともにパレード行進などを行います。父親が消防団員、母親が婦人防火クラブに所属し、親子で参加する者もいて頼もしく心強く思います。2月には春季全国火災予防運動行事の一環として町民の方々に防火、防災意識の向上と住宅用火災警報機設置促進を目的とした防火フェスタに参加し、防火の願いを込めた風船とぼし、防火パンフレットやティッシュを配布しながら火災予防、火の用心と住宅用火災警報機の設置を呼びかけています。子どもたちには大人よりも町民の方々に訴える力が絶大なものがあります。子どもたちがパンフレットを配ったり、火災予防、火の用心を呼びかけることで町民は熱心に耳を傾け、パンフレットにも目を通していただけました。8月には夏休みを利用して鹿児島県消防学校で実施される、少年消防クラブ研修会に参加しています。放水訓練や煙体験、火災時の避難訓練、消防車両や救急車両、防災ヘリコプターの見学を行い、自らがいろいろな体験をすることで火災の恐ろしさを知ることができたと思います。クラブ員は生き生きとした姿でいろいろな場所で興味を持ち積極的に活動する姿が印象的でした。同じく8月に湧水町少年消防クラブ研修会が実施され、救急講習として心肺蘇生法やAEDの取り扱いについて学びました。クラブ員も命の大切さ、尊さについてあらためて考えさせられる研修となりました。12月には年末特別警戒で、消防団員と共に防火の法被を身にまとい拍

子木を打ち鳴らして「火の用心、ガスの点検もう一度。たばこの不始末火の用心。」と地元市街地の夜回りを実施します。住民も感謝の言葉や励ましの声をかけてくれます。クラブ員には何よりのご褒美だと思えます。これらの活動を通してクラブ員全員があらゆる災害に対しても自分を守る力を身につけることや親の世代になったとき、高い防災意識を持って家庭や地域を守っていくことができるように、将来の地域防災の担い手、そして社会に貢献できる大人になることを目指し、クラブ員と指導者、保護者が一体となり今後も活動を続けていきたいと思えます。

今後の課題ですが、平成20年5月の発足当時は28名在籍していたクラブ員も現在は17名と減少しています。今後はクラブ員の確保が重要です。クラブ員の確保のためには、湧水町吉松少年消防クラブの活動のPR、募集チラシの配布、保護者と地域住民の理解と説得、このようなことを踏まえながらクラブ員の確保につとめていこうと考えています。



花火・火遊びによる火災の防止

総務省 消防庁 予防課

1 花火は楽しく安全に遊びましょう

夏の風物詩「花火」。子供たちにとって楽しみな季節となりました。

しかし、気軽に楽しめる花火も、取り扱いを誤ると火事や火傷などの事故につながりかねません。全国で、花火が原因である火災は平成25年中に87件、平成26年中に36件発生しています。

火災や火傷などの事故が起こらないよう十分注意し、夏の楽しい思い出にしましょう。



2 火遊びによる火災を防止しましょう

子供の火遊びによる火災は、大人がいない時に発生することが多く、そのため火災の発見が遅れ、火災が拡大する要因にもなります。

平成26年中の火遊びによる火災は、978件発生しています。

そのうち、「ライター」によるものが474件（48.5%）で最も多く、次いで「マッチ」によるものが201件（20.6%）、「火のついた紙」によるものが42件（4.3%）、煙火によるものが36件（3.7%）となっています。

火遊びによる火災をなくすためにも、大人が子供たちに対して火災の恐ろしさや正しい火の取扱い方法を教える必要があります。子供の火遊びによる火災が起こらないよう、もう一度子供たちと火災の恐ろしさ・火の取扱いについて話し合うようにしましょう。

花火を安全に遊ぶポイント

- 1 気象条件を考え、風の強いときは花火をしない
- 2 燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ
- 3 子供だけでなく大人と一緒に遊ぶ
- 4 説明書をよく読み、注意事項を必ず守る
- 5 水バケツを用意し、遊び終わった花火は必ず水につける

火遊びによる火災防止のポイント

- 1 子供だけを残して外出しない
- 2 ライターやマッチを子供の手の届くところに置かない
- 3 子供だけで火を取り扱わせない
- 4 火遊びをしているのを見かけたら注意する
- 5 火災の恐ろしさ・火の取扱い方法についてきちんと教育する

3 PSCマークのないライター等の販売は規制されています

消費生活用製品安全法により、いわゆる使い捨てライターや多目的ライターは、本体にPSCマークが表示されていないものは販売が禁止されています。PSCマークは、子どもが簡単に操作できない幼児対策（チャイルドレジスタンス機能）等の技術基準に適合した場合に付される表示です。ご家庭のライター等にPSCマークが付いているか確認しましょう。

販売規制の対象となるライター等

- 使い捨てライターや多目的ライター（点火棒）のうち、
- ・燃料の容器と構造上一体となっているものであって
 - ・当該容器の全部又は一部に**プラスチック**を用いたもの



問い合わせ先

消防庁予防課予防係 森野
TEL: 03-5253-7523

消防団ドラマ「HEAT」の撮影に全面協力

総務省 消防庁 防災課広域応援室

「本番！よーい、スタート！」（カチン！）「はい、チェック」監督の声が撮影現場に響きます。

今年5月の晴れた日曜日、消防団ドラマ「HEAT（ヒート）」が都内でクランクインしました。睨み合うクールなビジネスマンと熱いまなごしの消防士。階段を全力で駆け上がってはストップ。台詞を合わせてはストップ。納得いくまで何度も何度も撮影が繰り返されます。



【総務省消防庁がプロジェクトに全面協力】

7月7日（火）夜9時から関西テレビ・フジテレビ系全国ネットで、連続テレビドラマ「HEAT」が放送されます。

5月22日（金）には、高市総務大臣から、消防団の加入促進をはじめとした充実強化に取り組んでいる中で時宜を得た企画であり、総務省消防庁及び東京消防庁が全面的に協力している旨発言したところです。

本プロジェクトには、昨年4月の企画段階から総務省消防庁が全面的に関わっています。

【史上初の消防団ドラマ】

「HEAT」は、史上初となる消防団を舞台にしたドラマです。出演俳優の皆さんは、実際に東京消防庁の消防学校で防火服の着脱訓練やホースの延長作業、放水訓練といった実技指導を受け演技に挑んでいます。

地域防災にひたむきに取り組む消防団員の懸命な姿は、私たちに改めて防災の大切さを訴えかけます。こうした作品を通して、国民の皆様が消防団活動に関心を持っていただくとともに、現在、地域防災のリーダーとして活躍している方にとって誇りと励みになることを願っています。

※消防団

消防団は、市町村の非常備の消防機関であり、その構成員は他に本業を持ちながらも、権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員として、「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づき、消防・防災活動を行っています。平成26年4月1日現在、消防団員は86万4,347人、消防団の数は2,221団あり、消防団は全ての市町村に設置されています。また、東日本大震災を経てその重要性が叫ばれており、女性団員（2万1,684人）や学生団員（2,725人）も増加しています。総務省消防庁では、消防団の加入促進をはじめとした充実強化に取り組んでいるところです。



番組情報

○あらすじ

ドラマの舞台は東京の西南部に位置する地方都市・幸多市（さちおおし）。

主人公・池上タツヤ（AKIRA）は、日比野仁（稲垣吾郎）が社長を務める不動産会社「クローバー都市開発」の社員で、数百億円規模の都市開発プロジェクトの候補地として幸多市に目をつける。

用地買収のため、地権者の情報を手に入れようと、素性を隠して幸多市の消防団第十一分団に入団したタツヤ。そこで出会ったのは、安住咲良（栗山千明）をはじめとした個性豊かな消防団員たちと、消防士・合田篤志（佐藤隆太）。

消防職員と違い火災現場での地味な活動、生業の合間をぬっての訓練など、成果主義の不動産会社で成り上がってきたタツヤにとって、消防団の活動は理解できないことばかり。おまけに彼女たちは、地域の人からあることを理由に「ショボショボ団」と馬鹿にされ、人員減に悩む集団だった。

そんな咲良たちを見下すタツヤだが、懸命に地域住民のために活動する消防団に接し、またライバル視する合田と共に災害に直面する中で、「自分の利益が第一」という信念が少しずつ揺らいでいく。

その一方で、結城エリ（菜々緒）から得た情報を使い進めていた都市開発プロジェクトをめぐって、他の候補地を推す濱田直紀（田中圭）との争いも激しくなっていく……。

現在、地域防災のリーダーとして活躍の消防団の皆さん、そして、これから入団を希望する皆さんへの応援歌として誕生したドラマ「HEAT」を是非ともお楽しみに。

なお、ドラマに先行して、6月25日（木）には小説「ファイアマンの遺言」が角川文庫から刊行され、小説・テレビにより展開されます。

○出演者情報

EXILEのAKIRAさん演じる主人公は、クールだが内に熱い心を持つエリートビジネスマン。自信家で負けず嫌い、自分の目的達成のためには手段を選ばない役どころは、これまでの出演作品では見せたことのない姿です。そんな彼が、「消防団」との出会いにより、人間的に成長していく様子を演じていきます。

また、消防団のリーダー的存在となる女性団員役には、シリアスもコメディも巧みに演じ分ける実力派女優・栗山千明さんが出演。幼稚園の教諭として働きつつ、消防団の仕事を誇りに思い、団を牽引する熱く心優しいヒロインを演じます。出演に先立ち、消防団の実技訓練も受けた彼女の整然とした動きにも注目です。

加えて、防災意識の低い主人公と度々衝突する消防士の隊長役として佐藤隆太さんが出演。現場の最前線で常に冷静な彼も、地域を災害から守る熱い気持ちを持つリーダーです。これまでの明朗快活なイメージとは異なり、厳しくも逞しい、頼りがいのある隊長の姿を見せてくれます。

さらに、主人公が勤める不動産会社の社長役としてSMA Pの稲垣吾郎さんが出演。経営者としての冷徹さと、バラの栽培が趣味というエレガントな一面を併せ持つ個性的な人物として、ドラマに花を添えます。

その他、消防団の個性的な面々や主人公の会社関係の人物など、豪華俳優陣が続々と出演します。

消防団への入団を機に、主人公が「街を守るヒーロー」へと成長する姿を笑いあり、感動ありで描きます。



放送時間：7月7日（火）夜9時スタート 初回2時間スペシャル
（2話以降 毎週火曜夜10時から10時54分）

関西テレビ・フジテレビ系全国ネットにて放送

出演：AKIRA、栗山千明、佐藤隆太、田中圭、菜々緒、稲垣吾郎 ほか

消防庁では、このような作品への協力などを通して、国民の皆様にも消防行政に関心をもってもらえるよう、引き続き多様な広報業務を実施してまいります。

※写真及び番組情報の提供：関西テレビ

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室 島田
TEL: 03-5253-7527（直通）

消防団の充実強化に向けた経済団体への働きかけ

総務省 消防庁 地域防災室

近年、東日本大震災をはじめ、様々な災害が発生し、大規模地震の発生も危惧され、地域防災力の充実強化は喫緊の課題です。消防団は、地域防災力の中核として地域の安心安全を担っていますが、消防団員数は年々減少し、地域防災力の低下が危惧されています。政府は、消防団の充実強化を図っていますが、被用者が消防団員の約7割を占めていることから、事業者のご理解とご協力が不可欠です。

このため、坂本消防庁長官等が各経済団体を訪問し、高市総務大臣の書簡を手交し、①従業員（特に女性や自衛消防組織の構成員）の消防団への加入促進、②勤務の免除やボランティア休暇、消防団活動がプラスに評価される仕組み等についての配慮、③学生消防団活動認証証明書を提出した大学生等を採用時に積極的に評価することの3点について、協力を依頼しました。



日本経済団体連合会・竹原首席主幹（2月20日）



経済同友会・前原専務理事（3月4日）



日本商工会議所・青山理事・事務局長（3月4日）



全国商工会連合会・石澤会長（2月20日）



全国中小企業団体中央会・高橋専務理事（2月17日）

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部地域防災室 岡地
TEL: 03-5253-7561

うちの

名物団員



札幌市西消防団 琴似分団 団員

笹岡 恵美子

札幌市西消防団の大道芸人団員、「笹岡 恵美子」を紹介します。

笹岡さんは、ゴム風船を巧みに操るバルーンアートにおいて、動物系から装飾系まで何でも造ることができる大道芸人「バルーンアーティスト」です。

笹岡さんは、これまで様々なイベントを通じて多くの子供たちの笑顔に出会ってきましたが、そこには、相当の苦労があったそうです。単に、黙々と風船を繋いで造っても子供たちを引きつけられないことに気づき、孤軍奮闘し、今では、類まれな「トーク力」(話術)を身に付け、所属する消防団イベントをはじめ、地域の各種イベントに幅広く活躍しています。

今後も、地域の安全・安心のために、バルーンアートを通じて活躍する「笹岡さん」に期待します。



南部町消防団 女性分団 団員

木村 安莉沙

役場職員として勤務する木村安莉沙さん。平成25年から消防団員として活動に取り組んでいます。

青森県の消防団員募集ポスターや青い森鉄道沿線の魅力を伝える「わ」の娘っ子など多くの活動に精力的に取り組んでいます。消防団においても、自身の特技である吹奏楽を生かし、ラップ隊の一員として消防活動に取り組んでいます。



岩手町消防団 団長

松村 昭一

日本で唯一と言われる「県郡町」が同一名称の岩手県岩手郡岩手町から平成27年4月1日付けで岩手町消防団の団長に就任した松村昭一団長をご紹介します。

松村団長は、昭和54年6月に入団し、団員歴36年の団長です。現在、会社勤めのかたわら、岩手町交通指導員副隊長、北岩手地区少年警察ボランティア協会副会長及び岩手町少年補導連絡会会長を兼任しています

若いときは青年会の活動に没頭し、町内各地区に出向いて懇親を深めた団長は、現在、春は、学校や保育所で行われる交通安全教室や火災対応、夏前は消防演習や操法競技会、秋は総合防災訓練、冬は出初式と年中365日昼夜を問わず活動しているスーパー団長です。消防団をすみからすみまで知り尽くす団長の今後の活動に皆さんご期待ください。



北海道

青森県

岩手県

上尾市消防団 第六分団 分団長

榎本 貴



上尾市では数少ない牧場経営者の榎本分団長は、酪農の傍ら分団長として団員の信頼も厚く、分団員を取りまとめ消防団活動に従事しています。

埼玉県上尾市の荒川のほとりにあり、荒川サイクリングロードの休憩スポットでもある榎本牧場は、「いのちの温かさ」に触れる、本格的な牧場体験が楽しめます。

また、県内外からも搾りたての牛乳を使用した美味しいジェラートアイスを求め多くの方が訪れています。

西ノ島町消防団 第1分団 団員

伊藤 秀明



(写真:手前の二人の女の子は、伊藤さんのお子さんです。)

日本海に浮かぶ隠岐諸島のひとつ、西ノ島町からは伊藤秀明団員を紹介します。隠岐諸島には人の住む島が4つあり、そのうち3つの島を島前(どうぜん)と呼びます。伊藤さんは、この島前に古くから伝わる隠岐島前神楽を伝承する活動をされています。

神楽は神事において神に奉納される歌舞であり、西ノ島町のお祭りには欠かせないものです。慣れ親しんだ神楽の拍子を聞けばお年寄りから子どもまでみんなが盛り上がります。伊藤さんには、今後も伝統文化を守るとともに町の安全安心を守り、町を盛り上げてくれることを期待しています。

大分市消防団 第1方面隊 八幡分団 分団長

阿部 敏成



平成27年 消防出初式にて
(写真左が阿部分団長)



ビワの収穫

ビワの産地、田ノ浦地区を管轄内にもつ、阿部分団長は、自身も農園でビワを生産しています。毎年、地元の小学生に、ビワの収穫を体験してもらう活動をしており、その活動が新聞やニュース番組に取り上げられるなど、田ノ浦産ビワのPRに一役かっています。

優しく・気さくな人柄で、地域の方々に親しまれている阿部分団長ですが、地元や消防に対する思いは人一倍強く、いざ災害となると、いの一番に現場に出動し活動します。団員のみならず、地域の方々からも信頼される存在です。

消防団の広場

岩手県「安全、安心のまちづくり」

葛巻町 消防団長

遠藤 正樹



葛巻町は、岩手県北部に位置し、北上山地に抱かれた人口約6,800人、総面積434.99km²、北緯40度ミルクとワインとクリーンエネルギーの町です。町の基幹産業である酪農は、先人のたゆまぬ努力により幾多の苦難を乗り越え、現在では東北一の酪農郷として発展を遂げております。今年7月15日には、町制60周年を迎え、「地域の資源を宝に変えて幸せを実感できる高原文化の町」を目指しております。

葛巻町消防団は、明治36年、町内有志によって葛巻青年共益団が組織され、昭和30年の町村合併により誕生しました。現在、団長以下315名、本部、ラップ隊ほか18分団で構成され、地域の安全と住民の生命・身体及び財産を守るため日々消防技術の進歩充実に積極的に取り組んでおります。

特に、一級河川馬淵川を源流とする当町では、過去に何度も水害に見舞われ、多大なる被害を受けてきた経験を基に、平成5年から水害を想定しての水防工法訓練を町独自で実施し、水害対策に努めております。

また、5度の全国消防操法大会出場と上位入賞を果たし、団員の操法技術向上と士気の高揚を図っております。

近年、地震、風水害など不測の自然災害

が発生しやすい状況下にあります。災害の未然防止及び応急体制の確立を図り、町民が安全に安心して暮らせる魅力ある町づくりに団員一丸となって、なお一層の活動・訓練に取り組んでまいります。



水防工法訓練



第24回全国消防操法大会出場

平成27年度 全国統一防火標語

「無防備な 心に火災が かくれんぼ」

8月の日本消防協会関係行事

8月 5日(水)～7日(金) 少年消防クラブ全国交流大会(徳島県)

8月17日(月)～24日(月) 第29回中国消防事情調査

編集後記

早いものでもう7月、夏本番もすぐそこですが、皆さまにはお変わりなくお過ごしでしょうか。この時期は、梅雨明け前の集中豪雨がとても気になります。集中豪雨では、激しい雨が数時間にわたって降り続き、河川の氾濫や土砂災害が多数発生しています。このような気象災害を防止・軽減するために、警報や気象情報などの防災気象情報が発令されますので、災害から身を守るためには、これらの防災気象情報を有効に活用することが重要です。

さて、これらの気象災害に備え、全国各地では、水防訓練や夏期訓練が実施され、地域防災のリーダーとして消防団員の皆さまには、暑さに負けず訓練に励まれていることと思います。実災害には、訓練成果を生かし、安全管理には十分注意し活動を行っていただきたいと思います。

話は変わりますが、7月の京都といえば祇園祭。この祇園祭は、平安時代に疫病退散を願った御霊会に始まりましたが、時代の流れにより豪華に真夏の熱い祭礼として、東京の神田祭、大阪の天神祭とともに日本三大祭の一つとして有名になりました。1か月に渡って神事や行事が繰り広げられますが、2014年からは、約半世紀ぶりに後祭が復活し、14日～16日の前祭の宵々山・宵山、17日の前祭山鉦巡行・神輿渡御・神幸祭、21日～23日の後祭の宵山、24日の後祭山鉦巡行・還幸祭では多くの人で賑わいを見せ、町は祭り一色となります。この山鉦巡行が終われば、関西では梅雨が明け夏本番を迎えます。

高温多湿になるこの季節、熱中症の危険も高く、体調を崩しやすい頃となります。こまめな水分補給と塩分補給に心がけ、熱中症を予防しましょう。

(M.M)

お詫びと訂正

日本消防2015年6月号掲載うちの名物団員紹介ページ(P45)の中で、山梨県からご紹介の佐野卓郎さんの写真が富山県の欄に掲載されてしまったので、関係各位の方々に対しまして深くお詫び申し上げます。

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十八巻第七号
平成二十七年七月五日印刷
平成二十七年七月十日発行

編集人 生 嶋 文 昭

発行所 (公財)日本消防協会
東京港区虎ノ門二丁目九番十六
電話 〇三(303)一四八二(代)

印刷所
千葉市稲毛区山王町一〇二一五
株式会社 白樺写真工藝
電話 〇四三(423)二〇一(代)

消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員
消防職員
ならごなたでも
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済

消防団
消防本部

毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%) + 配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円(ゆうちょ
銀行は五千円)から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金(6種類)又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金(脱退一時金)
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

(お問い合わせ先) 公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494

平日 9:00~17:00